

結果報告

学生対象「獨協大学におけるジェンダーとセクシュアリティの現状に関するアンケート調査」 教職員対象「セクシュアル・マイノリティ学生への対応状況把握のためのアンケート調査」

獨協大学ダイバーシティ推進連絡会*は昨年7月、学生を対象に「LGBTQ学生を取り巻く現状とニーズ把握のためのアンケート調査」を実施しました。それから1年後の今回の調査では、学生に対しては「本学がどのくらい学生にとって過ごしやすい環境に変わったか(変わっていない部分はどこか)」を、教職員には「学生対応で配慮していること、とまどっていること」等を聞きました。

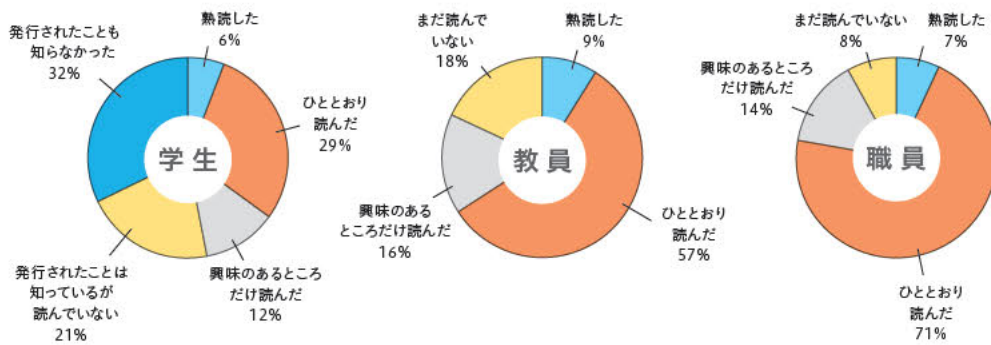
アンケート結果の概要を、2回に分けて報告します(次回は2024年1月号に掲載予定)。

***ダイバーシティ推進連絡会**

副学長を部会長、学生部長を副部会長とし、教務課、学生課、保健センター、入試課、キャリアセンターの職員で構成。入学試験受験から卒業、キャリア支援まで、連携して学生サポートすることを目的とする。

回答者数:学生269人(全学生の3.2%)、教員161人(全教員の26.0%)、職員118人(全職員の41.7%)

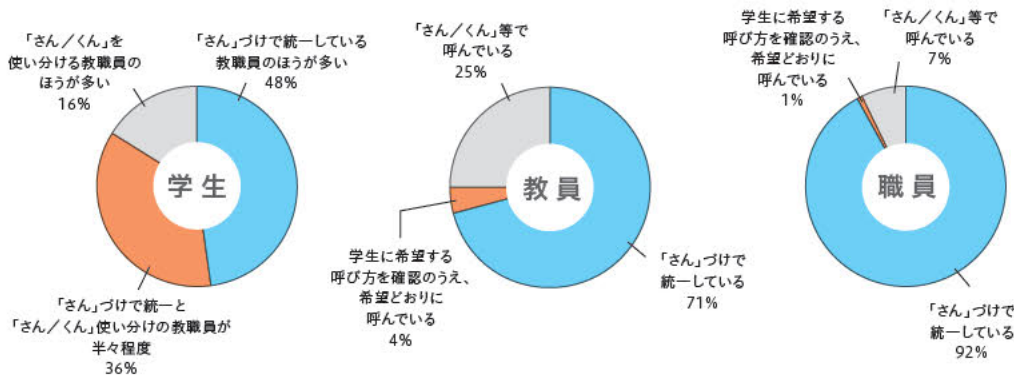
■ 昨年12月発行の「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer. 1」は読みましたか? (共通の設問)



教員・職員は「読んだことがある」人がいずれも8割、9割を超えています。学生は「読んだことがない」「発行されたことも知らなかった」の合計が半数を超えています。

2023年度新入生には入学時に全員配付しましたが、2年生以上には周知が不十分だったのかもしれない。2024年度以降も、新入生には全員配付し、ガイダンスを実施する予定です。

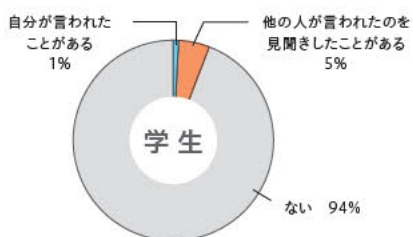
■ 獨協大学では、学生の呼び方は「〇〇さん」で統一するか、学生の希望に沿った呼び方をするよう推奨していますが、現状はどうか? (共通の設問)



教員の4分の3、職員の9割は「さん」づけで統一または学生が希望する呼び方をしていると回答していますが、学生の受け止め方はかなり異なるようです。

教員のアンケート回答率は26.0%だったことから、未回答の教員の中に「さん/くん」を使い分けている方が多いのかもしれない。

■ 4月以降にジェンダーやセクシュアリティについて不快な発言を受けた経験は? (学生のみ回答)



〈他の学生からの発言〉

「料理ができると女らしい」「女なら結婚して子どもを産むから5年ぐらしか働かないよ」など、女性に対するジェンダ 差別発言への怒りが多く寄せられました。

〈教職員からの発言〉

「女性/男性は～しなければならぬ」「男の子なのに日傘をさすのはおかしい」などのステレオタイプ発言、相手が異性愛者である前提での「ガ ルフレンド/ボ イフレンドはいる?」といった質問への不快感を示すコメントがありました。

「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer.1」をまだ読んでいない方は、大学HPからダウンロードしてください。学生課(学生センター1階)前でも配布しています。

